

浜野章吉

号

浜野箕山

はまの・しょうきち

はまの・きざん

誠之館文章寮掛

経歴

生: 文政8年(1825年)9月13日、備後国深津郡福山東町生まれ

没: 大正5年(1916年)4月東京で没、享年92歳、福山吉津町長正寺に葬る

天保7年(1836年)～8年(1837年)	12～13歳	渡辺橘南に学ぶ
天保12年(1841年)	17歳	広島藩儒坂井虎山に学ぶ
—	—	津藩有造館に游学して、斉藤拙堂、土井贅牙について研修
嘉永元年(1848年)	24歳	津より上書して、藩校教育の革新を提言
嘉永6年(1853年)	29歳	ペリー来航、津から江戸へ急行して正弘に建議
—	—	弘道館会読掛
安政3年(1856年)	32歳	初出仕、誠之館文章寮掛
安政5年(1858年)	34歳	文章寮廃止に伴い、退いて家塾で教授
文久3年(1863年)	39歳	阿部正方に従って、山城八幡の警備
—	—	京坂地方や諸藩の間に奔走して外交のことにあたる
明治元年(1868年)12月27日	44歳	督事兼文学教授
明治2年(1869年)10月	45歳	少参事文武校担当<誠之館教育の改革、誠之館支校(山野村)建設>
明治4年(1871年)12月5日	47歳	深津県九等出仕
明治5年(1872年)6月10日	48歳	小田県権典事
明治6年(1873年)8月18日	49歳	小田県大属
明治8年(1875年)	51歳	千葉県属
明治15年(1882年)	58歳	内務省属(地誌編輯)
明治25年(1892年)	68歳	第二高等学校教授
明治30年(1897年)～32年(1899年)	73～75歳	陸軍幼年学校嘱託
明治32年(1899年)	75歳	京都に住む

生い立ちと学業、業績

名は源吉、諱は王臣、字は以寧、通称章吉、号は箕山のち猶賢。福山藩士浜野徳蔵の子として、文政8年(1825年)9月13日、備後国深津郡福山東町生まれる。福山藩士。

12～3歳のころ渡辺橘南に学び、また17歳より広島藩儒坂井虎山に学ぶ。虎山はその才を愛し養って自分の嗣子にしたかったが、福山藩がそれを許さなかった。その後、津藩有造館に遊学して、斉藤拙堂、土井贅牙について研修した。阿部正弘が津藩主に章吉の教育を依頼しているのは、その才を高く買っていたしるしである。

嘉永初年、津より上書して、藩校教育の革新を提言したのが誠之館創設の一契機となった。嘉永6年(1853年)、ペリー来航によって海内の議論が沸騰すると、津から江戸へ急行して正弘に建議し、正弘からその篤志を賞せられている。

安政3年(1856年)、初出仕して、誠之館文章寮の掛に任命された。安政5年(1858年)、文章寮廃止に伴い、退いて家塾で教授した。文久3年(1863年)、阿部正方に従って、山城八幡の警備にあたり、その後京坂地方や諸藩の間に奔走して外交のことにあたった。

慶応3年、幕府は大政を奉還した。阿部氏は徳川氏の譜代の親藩であった。箕山は憂うところあり、京より駈せ帰り、藩内において大いに大義名分の論をはった。徳川は、自ら朝廷の臣となった。もはや阿部氏も列侯でも陪臣でもない。朝廷の臣である。幕府を援け朝廷に抵抗する根拠はないと。論議百出の末、やや賛成が多く、遂に藩の方針が下された。明治元年長州が福山を攻撃してきたが、向背一決、戦いをさけて平和裡に解決した。箕山はこの交渉に大いに貢献した。

明治元年(1868年)12月27日督事に任じ、督事兼文学教授、さらに翌明治2年(1869年)10月、福山藩少参事文武校担当に任ぜられ、その献策によって誠之館教育の改革や、誠之館支校の建設にあたった。誠之館の教育改革に尽力した功績は多大である。

廃藩後は、明治4年(1871年)12月5日深津県九等出仕、明治5年(1872年)6月10日小田県権典事、明治6年(1873年)8月18日小田県大属に任命された。その後、明治8年(1875年)に千葉県属に、明治15年(1882年)に内務属に転じて地誌編輯をおこなう。明治19年(1886年)には非務となったが、明治25年(1892年)第二高等学校教授に、明治30年(1897年)には嘱託として陸軍幼年学校に勤務するが、明治32年(1899年)には解職された。その後は京都で余生を楽しんでいた。左手で左文字を書くのに妙であったという。

『懐旧紀事 阿部伊勢守事蹟』は著名である。

明治19年(1886年)2月15日、福山市丸之内1丁目(赤門の内側)にある「捨生取義の碑」を撰す。

明治26年(1893年)10月、福山市今津町薬師寺境内の「傾山三吉先生之墓」、「冠山三吉先生之墓」の墓碑を撰す。

大正5年(1916年)没、享年92歳。福山吉津町長正寺に葬る。

誠之館所蔵品展示品

管理No.	氏名	名称	制作/発行	日付
06696	濱野章吉 書	袱紗和歌「桃の咲く」	—	大正2年
06691	阿部正精 書	扁額「攢雲亭」	—	—
03929	濱野章吉 著	『懐旧紀事 阿部伊勢守事蹟』	吉川半七	明治32年
06693	濱野章吉 著	『猷賢憶測』	宮内黙蔵	明治36年
06694	濱野章吉 著	『箕山文稿』	宮内黙蔵	明治36年
06695	濱野章吉 著	『猷賢左書』	濱野章吉	明治41年
06692	濱野章吉 著	『猷賢左書説 米寿記念刊刻』	濱野章吉	明治45年
04692	宮内黙蔵 撰	「蓑山濱野先生行實」	—	明治44年

出典1:『福山藩の教育と沿革史』、1・158頁、清水久人著、鷹の羽会本部阿部正弘公顕彰会編刊、1999年8月20日

出典2:『誠之館百三十年史(上巻)』、107・502頁、福山誠之館同窓会編刊、昭和63年12月1日

出典3:『近世後期の福山藩の学問と文芸』、89頁、福山市立福山城博物館編刊、1996年4月6日

出典4:『郷賢録』、28頁、福田禄太郎著、福山城博物館友の会編刊、平成12年10月1日

出典5:『福山藩の文人誌』、115頁、濱本鶴賓著、葦陽文化研究会編刊、1988年7月27日

出典6:「箕山濱野先生行實」、宮内黙蔵、明治44年4月

出典7:『福山の今昔』、176頁、濱本鶴賓著、立石岩三郎刊、大正6年4月26日

出典8:『福山いしぶみ散歩』、20頁、「大成館中学校」、佐野恒男著、福山文化財協会刊、1993年5月12日

出典9:『福山いしぶみ散歩』、137頁、「捨生取義の碑」、佐野恒男著、福山文化財協会刊、1993年5月12日

2005年3月2日更新:著書●2005年3月31日更新:本文●2006年3月14日更新:所蔵品・著書●2006年3月16日更新:写真●2007年2月5日更新:経歴・本文●2008年11月20日更新:氏名●2009年2月26日更新:本文●2010年12月2日更新:誠之館所蔵品展示品●2011年3月23日更新:誠之館所蔵品展示品●2011年4月14日更新:誠之館所蔵品展示品●2012年2月14日更新:本文・出典●2012年2月17日更新:本文・出典●2015年1月8日更新:誠之館所蔵品展示品